



もりおか復興推進

# しえあハート村

## 記録誌





# しえあハート村記録誌の 発刊にあたって

盛岡市長 内 舘 茂



もりおか復興推進しえあハート村は、被災地から進学のために盛岡市へ転入する学生に無償で居所を提供する「復興支援学生寮」や、復興支援団体の活動拠点となる「復興支援シェアオフィス」など、被災者や被災地の状況にあわせ、きめ細かな復興推進事業に取り組むための複合的拠点施設として平成25年に開村し、現在に至るまで長期にわたって、事業を行ってまいりました。

各事業の運営にあっては、町内会をはじめとする、多くの近隣住民の皆様の多大なる御理解と御協力をいただき、深くお礼申し上げます。

復興支援学生寮については、これまで65名の学生が共同生活を送りました。被災した故郷を離れ、盛岡で暮らすことには、様々な想いがあったことと思いますが、学生の皆様は、卒業後、それぞれの道に進まれ、御活躍されており、大変うれしく思っております。

しえあハート村での、人と人、想いと想いの繋がりが、関わっていただいた多くの皆様にとって、この先に続く道のりを力強く歩む糧となり、そして、この繋がりが、今後も脈々と続いていくことを切に願っております。

## 目次 CONTENTS

発刊にあたって .....	1
はじめに・しえあハート村の概要 .....	2
しえあハート村のあゆみ・寄稿 .....	3
復興推進シェアオフィス入居団体の紹介 .....	11
思い出の写真 .....	12

# 01

## はじめに

もりおか復興推進しえあハート村は、被災者や被災地の状況を踏まえ、きめ細かな復興推進事業に取り組むため、平成25(2013)年に開設し、平成24(2012)年から事業を開始していた「復興支援学生寮」に加え、「復興支援団体の共同オフィス」、「ボランティアの宿泊施設」、「被災地と内陸のコミュニティの交流を促進するための支援拠点」など、さまざまな機能を集積した復興推進の複合的拠点施設として設立されました。

この記録誌は、これまでしえあハート村で実施してきた各事業や携わってこられた皆様の想いを残し伝えるため、記録として取りまとめ、発行したものです。

# 02

## しえあハート村の概要

所在地 盛岡市本宮五丁目 10 番

建物 25 棟

倉庫 32 庫



# 03

## しえあハート村のあゆみ

H23(2011). 3	東日本大震災発災
H23(2012). 4	(独法)都市再生機構(UR)と盛岡市の間で、URが保有する仮住まい住宅を、東日本大震災により被災した者及び支援者等に提供する住居として借り受けるための貸借契約を締結。URから8棟を借受けし、1棟を被災世帯へ、1棟を支援団体へ無償貸与
H24(2012). 4	未使用の6棟で復興支援学生寮の事業を開始。 寮生のアンケートにより学生寮の愛称が「しえあハート村」に決定
H25(2013). 4	全25棟が寄付され、「もりおか復興推進しえあハート村」としてスタート
H25(2013). 5	しえあハート村開村式挙行政
H25(2013)~	<ul style="list-style-type: none"><li>・復興支援シェアオフィス</li><li>・復興支援コミュニティ・カフェ</li><li>・被災地支援活動促進事業</li><li>・地域コミュニティの交流支援事業</li><li>・絆デザイン魅力創造事業</li><li>・復興推進デジコンオフィスMORIOKA</li></ul> など様々な事業を展開
R4(2022)	しえあハート村事業を令和6年度末で終了することを決定
R7(2025). 3	しえあハート村閉村式を挙行政 しえあハート村閉村

# 04

## 寄稿

しえあハート村での活動の数々は、学生寮相談支援員や町内会の皆様、シェアオフィス入居団体、復興支援学生寮生などたくさんの皆様の存在によって支えられてきました。

支援員の皆様には、日々の草刈りやイベントの運営・企画、寮生の悩み相談など、大きなことから小さなことまで様々ご活躍いただきました。そして、この日々の活動は、町内会など近隣住民の皆様、シェアオフィス入居団体の皆様、寮生などの参画や見守りによって成り立っていたものです。

しえあハート村の閉村にあたり、運営に関わってこられた一般社団法人SAVE IWATE様、シェアオフィス入居団体様、本宮第四町内会様、学生寮卒寮生から寄稿をいただきましたのでご紹介いたします。

## 災害ボランティア拠点にもなった

しえあハート村 前田 達明さん

(一般社団法人 SAVE IWATE)



私は平成25年度の1年間、しえあハート村センターハウスに勤務しました。平成25年は8月9日の豪雨により岩手県中部で大規模な水害が発生した年です。盛岡市でも雫石川流域の繋地区や猪去地区などが被害を受けました。

当時、しえあハート村にはボランティア番屋、通称「ボラ番」という東日本大震災支援ボランティアの宿泊、送迎を担う施設がありました。8月9日の豪雨災害にあたって、盛岡市内の被災地支援ボランティアの宿泊受け入れと送迎も行いました。

感慨深かったのが、岩手沿岸から団体で来るボランティアが多く見られたことです。いまこそ東日本大震災での恩返しを、という気概にあふれた彼らの姿がとても頼もしく見えました。加えて、ボラ番には全国から腕に覚えのあるベテランボランティアも集いました。私もボランティア休暇をとって一緒に活動し、ベテランのみなさんに多くのことを教えてもらいました。この経験はその後も続く私の災害ボランティア活動の基礎となり、10年後に再び盛岡を襲った令和6年8月の水害でも役立ちました。しえあハート村は災害ボランティア文化の醸成に大きな役割を果たした場所でもあったのです。



## 「この人たちのために」と思えばこそ

遠藤 美沙さん (一般社団法人 SAVE IWATE)

平成25-26年度に、しえあハート村内にあった「ボランティア番屋」のスタッフとして活動してきました。ボランティア番屋は、全国から集まったボランティアの宿泊所であり、各被災地の人手需要とボランティアに来た人とのコーディネートをしたり、スタッフもボランティアと共に被災地や盛岡でさまざまな活動をしたりするところでもありました。水産加工に除雪作業、学習支援までその活動は多岐にわたります。

ボランティア番屋を利用する人の中には支援活動に対する強い思いを持っている人もいました。それに圧倒されると同時に、「どうしたらこんな風に人のために頑張りたいと思えるのだろうか」と、熱量の差を感じることもありました。

それが自分なりに分かったのは盛岡南高校のひと学年をまるっとボランティア活動に釜石市へ連れて行った時のことです。当然、生徒によってやる気の度合いは様々です。しかし、実際に現地に行き人々が生徒に会って嬉しそうなのを見ると、生徒たちの目の色が変わり熱心に作業に取り組みました。「この人たちのために」という相手がいればこそ頑張れるのだなと思いました。

私は「ボランティア番屋」終了後もSAVE IWATEのスタッフとして10年以上活動してきました。都度、「この人たちが盛岡に住んでよかったと思ってもらえるように」という思いが活動を続ける理由になってきました。



「ボランティア番屋」のスタッフ



しえあハート村内「ボランティア番屋」外観



雪印メグミルク労働組合の有志の方々と訪れた山田船越湾の防潮堤。「グリーンハート山田」では慰霊の桜と周辺の環境整備を実施した



盛岡南高校の1年生を連れて陸前高田市へ。語り部から当時の状況や防災を学んだ



釜石市鶴住居「にここ農園」の草取り作業



## 共同生活の全てが得がたい経験

岡垣 亮我さん（一般社団法人 SAVE IWATE）

「学生寮」といえば「みんなでわいわい楽しい」というイメージが先行しますが、そこに加えて「しえあハート村復興支援学生寮の寮生たち、みんなよく頑張った」というのが側にいた職員として率直なところであり、皆さんに伝えたいことでもあります。

「ただより高いものはない」ということわざがあります。復興支援学生寮は家賃が無料なのです。そのために(?)寮生たちは苦勞することになります。共同生活の相手は選ぶことができず、出身地も違えば学校・学年も違います。もちろん価値観も違います。仮に出身地や学年が一緒だったとしても、一緒に住むとなればどうしても相手の「あら」が見えてしまうものです。そんな相手と、お金のやり取りも含むコミュニケーションを取り、思いやり、気を遣いながら共同生活を成り立たせることは、実はそれ自体が大変なことでもあります。中には様々な事情により共同生活が難しくなり、途中で退去することになった寮生もいました。寮生はときに辛い思いをしたでしょうし、私たちも力不足を思い知りました。

また、学校生活やアルバイトで多忙なところで行事へも参加します。行事の中でしえあハート村の寮生は新入生歓迎交流会・草刈り・ご飯会・お祭り行事・卒業生を送る会などで、他の寮生はもちろん、大人から子供まで地域の方々、一般の被災者、ボランティアなどの方々とは必然的に関わることになります。同世代中心の社会だった高校生までとは異なり、どう振る舞ってよいかわからないことも多々あったであろうなか、行事を作り上げてくれました。

「若い時の苦勞は買ってでもせよ」ということわざがあります。復興支援学生寮に入寮した寮生たちは、まさに地域社会の中で共同生活をする「ただより高い」苦勞を買って出た（買わされた?）若者でもあります。歳をとるのを待つまでもなく、そうした苦勞を引き受けてきた卒業生は既に頼もしい目つきをしています。また、そんな共同生活のなかで「これが楽しかった／これが楽しくなかった」「これはありがたかった／これは困った」と思ったこと全てが実は得がたい経験で、今後の人生で「よりよく人と接すること」「社会をよりよくしていくこと」を考えると、必ずヒントをもたらしてくれるものと思っています。

しえあハート村で過ごした時間を「一生の思い出」と振り返る卒業生を見て「そんなそんな、良いこと言おうとしなくても」と思うこともありました。が、いや待てよ、私たち職員が窺い知れぬところにこそたくさんやりとり、誰かが側にいる安心を感じた瞬間、はたまた人間関係に悩み抜いて達した境地があるのではないか。「みんなでわいわい楽しい」はその上に成り立っているからこそ楽しいのではないか。もし私たちにその思い出づくりのお手伝いできていたなら、これほど嬉しいことはありません。寮生たち、頑張りました。そして寮生たちが頑張れたのも、しえあハート村に関わり、かけがえのない出会いをくださった全ての方々のおかげです。本当にありがとうございました。



## 未来をつむぐシェアのはじまりに

有坂 民夫さん（有限会社コンテンツ計画

・三陸みらいシネマパートナーズ）

2011年4月、東京育ちの私が、子供の頃家族旅行で一度訪れただけで、特に縁のなかったこの街に降りた理由は東日本大震災だった。それは一、二度形ばかりの支援に来て、被害の巨大さにおのきながら、細くでも長く関わろうと心に決めた頃でもあった。

縁が無い。ということは、多くの活動を自力でまかなうことと同じで、先走る気持ちで飛び込んだものの裏では心もとなさを抱えていた。そんなとき、支援で繋がった方に声をかけもらい村の一員となった。

開村の頃、気概に満ちた有志が集い、各地の復興に飛び回った。学生寮の生活音、自家菜園に近所の方の指導で実が成ればお裾分けがあり、センターハウスにはいつも誰かがいてくれた。痛みと困難を分かち合い、共に未来をつむぐ仲間が集った時は、ここにしかない村へと成長していった。村の一員として縁といただいた私は、いつしか盛岡市民となり、今年10回目の春を迎えた。今も同じようにここから沿岸に通っている。

月日は流れ、“大きな復興”は区切りの時期を迎えた。こうして無事に閉村の日を迎えたこと、これまで支えていただいた全ての方への感謝は尽きない。しかし、閉村は終わりではなく、新たなシェアの始まりとなって欲しい。広く開かれ、痛みと困難を分かち合い、共に未来をつむぐことができる場の仕立て方、育んだハートをシェアすることは、次の困難や災害に立ち向かう、何よりの備えとなるからだ。



しえあハート村のお祭りにて、有坂さんの企画する映画館「シネマ・デ・アエル」のカフェ部門「カフェ・デ・アエル」を出店。しえあハート村でパティシエを目指して勉強中の寮生とコラボして

デジコンシェアオフィスの入居団体でもあった「コンテンツ計画」の有坂さん。シェアする家庭菜園「ベジコン」を企画し何を植えるか計画している様子（写真左下）





## 将来の復興を担う人材に期待

鬼柳 悠己さん（本宮第四町内会）

本宮第四町内会の区域は、本宮5丁目、6丁目、本宮字小板小瀬等で、公共施設と戸建て住宅、マンション、アパートなど700世帯余りで構成されております。しえあハート村は当町内会の区域内にあり、本来は公園用地として整備すると聞いていましたが、盛南地区の区画整理事業の移転者の仮設住宅として建設され、H23年の東日本大震災の後「しえあハート村」として開設され、沿岸地域の被災者で大学や専門学校などへの入学のため盛岡に転入してくる方で、将来被災地の復興に貢献したいという意志のある方の居住場所として運営されてきました。

当町内会は、行事として総会、資源回収、路上花作り、茶話やかサロン、納涼祭、通学路の見回り、敬老会、新年会、などを本宮地区福祉推進会と連携して町内会各部、子供会、老人クラブ等と協力して行っており、特に資源回収では、しえあハート村の若い力を発揮していただきました。

また、しえあハート村の行事については、11日の灯り、新入生歓迎会、草刈り、地域食堂、壁面アート、オリンピックとの交流会などに町内の方々が参加協力したり、楽しく交流しておりました。なかでもしえあハート村新入生歓迎会は、当町内会の公民館で学生と町内会会員が多数参加し、お話や歌、演奏など楽しいひとりで歓迎しました。

町内の会員は、新入生の皆さんが無事卒村できるよう支援スタッフの方々と連携して活動することができました。それぞれの学生は、目的を達成して卒村するときは、希望に満ちた顔立ちで飛び立っていきました。なかには、沿岸の消防署に採用され、恩返しをしたいと私の自宅まで来て挨拶していった学生もおりました。

しえあハート村からは多くの学生が巣立ち、いよいよその役目を終えようとしています。担当された支援スタッフの皆様のご奮闘に感謝するとともに将来、被災地の復興に貢献されることを期待しております。しえあハート村はなくなります、向かいの公民館はあります。ぜひ盛岡にいらしたときは、思い出の地によって行ってください。健康に留意されご活躍されることを町内会員一同お祈りしております。



- ①2019年の新入生歓迎交流会で挨拶を述べる鬼柳さん（写真左）
- ②2016年秋、町内会・オリンピック選手を交え食事を開いた。
- ③2016年秋の町内会消防訓練には寮生も参加。



①



②



③



④

- ①2019年、本宮第四公民館で開催したしえあハート村秋祭りでドラムを演奏（奥）
- ②2020年春、先輩卒業生のために寄せ書きを作る小野寺さん（奥）
- ③地域食堂でおどけてみせる小野寺さん。ムードメーカー的存在でもあった
- ④2021年春、小野寺さんの卒業パーティ。寮生一人一人に宛てて手紙を書いた（前列中央）

## 「居場所」をつくるということ

小野寺 観輪さん（平成31年入寮～令和3年卒寮）



私たちのしえあハート村復興支援学生寮での生活は歓迎会に始まります。歓迎会には在寮生や団体・市職員のほか、本宮地区の住民が参加します。この場で在寮生は地域住民と近況を確かめ合い、新入生は初めて地域の方々と顔を合わせ、作ってくれた豚汁をいただきました。歓迎ムードが漂うなか、私は「自分はよそ者だ」と畏縮していたことを今でも覚えています。しかし、そう思っているのは自分だけだったことに気がつきました。在寮生はもちろんのこと、本宮の方々は歓迎会の日を境に私たちのことを「うちの（町の）子」としてあたたかく迎え入れてくれました。

地域食堂「けむし食堂」や村内一斉草集め、あらゆる行事に地域の方々が力を貸してくれ、そのたびに私たちは他愛のない会話を積み重ねていきました。私はこの「他愛のなさ」こそがしえあハート村のカギだと思っています。

用事があるわけではないけれど、センターハウスに向かってしまう。あらかじめ役割を与えられたわけではないけれど、イベントに行けばいつの間にか何かを担っている。今日起きた良いことも悪いことも、まずセンターのハウスの大人や共に暮らす仲間聴いて欲しい。それがしえあハート村。町にとっても寮生にとっても、この場所は「居たい・行きたい」場所だったのではないのでしょうか。

場所や時間・人々の関わりが作り出す「居場所」。つなぎ続けてくれて本当にありがとうございました。

## 喜びを分かち合える大切な場所

佐々木 桜子さん（令和2年入寮～令和6年卒寮）



私がしえあハート村に入寮したのは新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が始まった頃の2020年春でした。大学の入学式も中止になり、オンライン授業になったりと楽しみにしていた大学生活が思うようにできずにいました。

しかし、その中でも規模を縮小しながら地域食堂などの活動を行い、村の仲間や地域の方と交流を深めることができる貴重な機会になり、当時は村の外では人と集まる機会も少なかったため毎回参加することが楽しみになっていました。そして、制限がやっと緩和されてきた頃に開催されたのが「ふっこうふれあい祭り」。私にとってこの村に来て初めての大きなイベントでした。当日、玄関を開けて外に出てみると想像以上のたくさんの人で村が賑わっていて、コロナ禍では考えられなかった景色に嬉しくなった記憶があります。村で過ごす4年もの間に関わった人々と再会したり、そこで新たに出会う人もいたり…改めてこのしえあハート村がある意義を感じることができました。

しえあハート村は、同じ沿岸出身で集まった仲間から広がっていく輪がどんどん大きなものになって地域へと拡大していくことに喜びを感じ、それを分かち合うことができる大切な場になったと感じています。ここで繋がった素敵な縁をこれからも忘れず、大切にしていきたいと思います。



①2019年、地域食堂で先輩寮生とハートマークを作って「いただきます」のあいさつ（右）

②2022年春、先輩卒業生を送る会にて。佐々木さんは全員に事前アンケートを取ってクイズを考案・企画した（右中段）

③2022年春、東日本大震災追悼行事「祈りの灯火」でスピーチを読む佐々木さん

④2023年夏、地域の読み聞かせグループ「あぁ～ちゃん隊」の皆さんと。佐々木さんが読み聞かせをする場面も（左端）



# 復興推進シェアオフィス入居団体の紹介

01

一般社団法人 **ふたば**

代表 櫻 幸恵

ふたばでは子ども居場所づくり・学習支援事業を行っています。震災により内陸に転居してこられた方も含め、だれでもいつでも参加できる会場で、大学生が中心となって宿題や受験勉強のお手伝いをしています。しえあオフィスには2019年に入居して以来、他の入居団体様との情報交換などを通じて支援の充実を図ることができたことに感謝しております。また、しえあハート村に住んでいる大学生がサポーターとして参加してくれたこともありました。ぜひ、仙北と松園地区で開催している「宿題カフェ」にご参加ください。



「宿題カフェ」の様子



畑サークルの活動で収穫した野菜で  
芋の子汁を食べる参加者

02

特定非営利活動法人 **いなほ**

代表 藤 直也

令和6年度末で終了するしえあハート村は、地域の方々や避難者にとって温かく安心できる居場所でした。特に月に1-2回の子ども食堂事業は多くの家族が利用し、子どもたちが笑顔で集う場となり、地域との絆が深まりました。祭りやイベントも定期的に開催され、地域の賑わいを生み出しました。さらに、被災者支援のバスツアーでは、避難者のリフレッシュや交流の機会を提供し多くの感謝の声が寄せられました。当法人は、これからも子ども食堂や子育て事業など地域の人々の支援や生活に困っている方の支援など取り組んでいきます。

令和6年度 シェアオフィスに入居されていたみなさま

アートサポート団体 リーブス  
ブラインドドリーム  
特定非営利活動法人いなほ  
三陸みらいシネマパートナーズ

いわて結っこ盛岡  
特定非営利活動法人 wiz  
特定非営利活動法人 RAY of HOPE  
(有)コンテンツ計画

一般社団法人ふたば

# 05

## 思い出の写真

### スナップショット & 集合写真



るんびにい美術館の小林寛さんと  
盛岡情報ビジネス専門学校の学生によるロゴ (2013)



「ご飯の会」で流しそうめん (2014)



大宮中学校の生徒の職場体験で草刈り (2014)



すこやか保育園 寮生がサンタ役 (2015)



近所の子もたちの遊び場にもなっていた (2015)



月命日に灯を灯す「11日の灯り」にて (2015)



村内一斉草刈りに集まった方々 (2016)



トレーディングカードゲームで遊ぶ寮生 (2018)



蒸しパンミックスたこ焼きを見守る寮生 (2018)



着付け教室 (2014)



近所の小学生姉弟とトランプで遊ぶ寮生 (2018)



近所の小学生とジャガイモ掘り (2020)



寮生に宿題を見てもらう近所の小学生 (2021)



地域の保育園の園児と  
「トリック・オア・トリート！」 (2013)



「しえあハート村料理部」の活動風景 (2015)

# 壁面アート プロジェクト (2016・2017年度)



地域の児童らから寄せられた「手を振る人」の絵を審査する寮生



国体で盛岡を訪れる人に向け、「手を振る人」の絵で支援に対する感謝の気持ちを表現した



地域の児童らと拡大した絵に色を塗る



シャッターに感謝のメッセージを書く寮生



2017年は「音楽する人」の絵を集めて壁面で一つのオーケストラを表現した



「フキデチヨウ文庫」にてお絵描き会



地域の児童らとお絵描き会

# 地域食堂 プロジェクト (2018～2024 年度)



「けむし食堂」は「けらけら・むしゃむしゃ・しえあハート村」でいただきますの挨拶をした



「けらけら・むしゃむしゃ・しえあハート村」の合言葉に合わせてハートマークを作る参加者



「けむし食堂」では 20 人程度で調理、食事からさらに 20 人程度が合流した



食事の後に寮生がギターを披露したり、ボランティアによる読み聞かせをしたりした



コロナ禍に始まった地域食堂「はと村さん家の食卓」。少人数での会食を楽しんだ



「はと村さん家の食卓」では全員が「作る人」。みんなで丸めたり・巻いたり・トッピングしたりする作業を楽しんだ



みんなで恵方を向いて恵方巻きをガブリ！

# お祭りイベント



ハートな文化祭 (2014)



マルシェな秋・穫・祭 (2015)



壁面アートでオーケストラを表現した年は  
実際に音楽祭も開いた (2017)



西日本豪雨チャリティの秋祭り (2018)



釜石ラグビーチャリティ秋祭り (2019)  
「マイムマイムで繋がる」をテーマに



コロナ禍明けの秋祭り (2023)  
わたあめコーナーが子どもたちに大人気



最終年度の秋祭り (2024)  
卒業生による思い出の写真展示コーナー





発行

令和7年3月

盛岡市

(総務部 危機管理防災課)

〒020-8530 盛岡市内丸12番2号

電話 019-651-4111 (代表)